

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時にアジアの素晴らしい取り組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 活動報告.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	6
➤ 会議・イベント案内.....	7
➤ 冊子・ビデオ等の紹介.....	7
➤ 会員募集中.....	8

巻頭書記

毎月発行している JRRN ニュースレターも第 48 号となり、本年 8 月で節目の 50 号を迎えます。河川・流域再生に関わる情報媒体の一つとして、引き続き有益な情報発信を目指してまいります。

さて、5 月 31 日に『桜のある水辺風景 2011』写真の募集を締め切らせていただきました。多数の応募をいただきました。応募いただいた写真は「桜のある水

辺風景 2011』写真集」として、早期にお届けできるよう現在編集作業に取り組んでいます。

また、JRRN では、写真、イベントや出版の情報、投稿記事等、随時皆様からの水辺の情報を受け付けております。今後とも、水辺の情報を集約し広く普及する JRRN 活動への会員皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

JRRN 活動報告(1)

JRRN 河川再生事例集『よみがえる川』発刊案内

JRRN では、国内外の河川再生事例集「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集」を発刊いたしました。

本事例集では、JRRN が収集した約 230 の国内事例と約 100 の海外事例より、再生目標、成熟度や規模の異なる 24 の国内事例と 33 の海外事例を選出し、掲載しています。少しでも多くの方に川に興味をお持ちいただくため、各事例について写真などを交えながら、

再生に至る経緯、具体的な取り組み、現状や今後の展開などの視点で整理しています。

この事例集を通じて「河川再生」の取り組みにすこしでも興味を覚え、川を見たい、知りたいなど、次の行動へと後押しするきっかけとなれば幸いです。



【Web 掲載のお知らせ】

既に本書籍は、ご希望された皆様のもとに送付させていただいておりますが、その後も本書籍の入手方法について、多数の問い合わせをいただいております。

そのため、6 月 5 日「世界環境デー」より JRRN ホームページ上で本事例集を無償公開 (PDF ファイル、約 30MB) することとしました。JRRN ホームページ (<http://www.a-rr.net/jp/>) で詳細をご確認下さい。

【増刷分配布のお知らせ】

JRRN 会員を対象に、本事例集の増刷分を無料配布いたします。(ただし、郵送料のみご負担願います。) また、既に事例集を郵送されている会員の方々は、配布の対象外とさせていただきます。

なお、会員でない方は、事例集をお申し込みと併せて JRRN 会員登録 (無料) をお願いいたします。

お申し込み方法等の詳しい情報は JRRN ホームページをご確認下さい。 (JRRN事務局 伊藤将文)

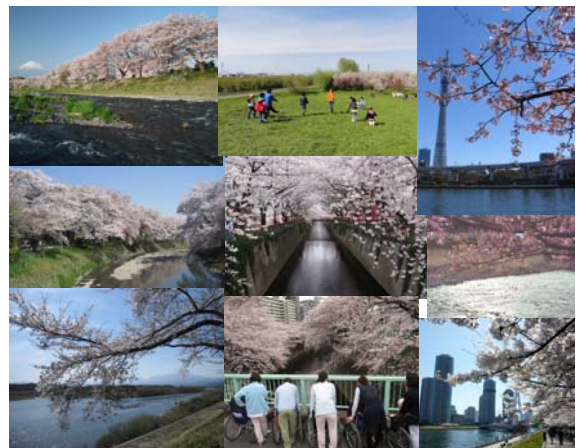
JRRN 活動報告(2)

『桜のある水辺風景 2011』 ご応募ありがとうございました

JRRN では、水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目指して、昨年に引き続き、2011 年に撮影された「桜のある水辺写真 2011」を JRRN 会員より募集し、14 名の方々より素敵なお写真をご応募頂きました。応募頂きました写真とコメントを取りまとめた『桜のある水辺風景 2011』写真集を現在編集中です。完成後、6 月中旬頃を目標に、以下のホームページ上でご紹介させていただきます。



なお、皆様からご応募頂きました桜のある水辺風景写真を通じ、水辺の魅力や日本の素晴らしさを再発見することができました。今回ご応募頂きました方々に厚く御礼申し上げますとともに、来年（2012 年）も本企画を予定しておりますので、皆様から多数のご応募をお待ちしています。



◆ダウンロード先（6月中旬頃掲載）

（JRRN 事務局 和田彰）

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/>

JRRN 活動報告(3)

第 7 回 JRRN ミニ講座「台湾の河川事情：台風被災からの教訓と治水対策」(2011 年 12 月 21 日開催) 講演録発行のご案内

2011 年 12 月 21 日(火)に開催しました『第 7 回 JRRN 河川環境ミニ講座「台湾の河川事情：台風被災からの教訓と治水対策」』（講師：莊 曜成氏）の講演録が完成しました。

本講演録では、台湾の河川や水問題全般に関わる特徴や河川管理の仕組み、これまでの度重なる水災害から得られた教訓に基づく異常気象下での河川計画や管理の考え方、また今後の台湾が目指す治水対策の方向性などに関する話題が濃縮されております。是非ともご活用頂ければ幸いです。

なお、JRRN では、講演会開催の約 2 ヶ月後を目標に講演録を編集・公開しておりますが、この度は公開が遅れましたこととお詫びいたします。



※講演録は以下からダウンロードできます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/2723.html>

（JRRN 事務局 和田彰）

会員寄稿記事(1)

韓国水文水資源学会年次総会に出席して

寄稿者：伊藤一正（ARRN 情報委員・株式会社建設技術研究所）

1. 韓国水文水資源学会

韓国水文水資源学会（Korea Water Resources Association : KWRA）は韓国内の河川、水文、水資源（ダム、上下水道、地下水等を含む）分野の研究者・専門家を組織した学会で、1967年に設立され、現在の会員数は約4,000名規模である。日本の水文水資源学会が1988年設立で1,500名規模であるのに対し、韓国は人口4,800万人と日本の1/2.5であるにも関わらず、約2.5倍もの会員数を誇る韓国水分野の最大学会となっている。

韓国は水分野に限らず、様々な分野が国際連携に積極的で、KWRAも現在は日本（水文水資源学会）、中国（水利学会）、ニュージーランド（NZ水資源学会）、米国（米国河川協会）との学会連携と研究協力を実施している。今回の2011年KWRA会議では他にカナダ、オーストラリアからの参加も見られ、さらに拡大がうかがわれた。

2. KWRA 総会の概要

- ・期間：2011年5月19日～21日
- ・場所：韓国慶尚北道大邱広域市 EXCO（Exhibition Convention Center）
- ・参加者：韓国水資源学会会員を中心に400-500名。海外では、日本4名、ニュージーランド4名、米国2名、カナダ1名、オーストラリア1名等。



写真1. 会場となった大邱広域市 EXCO センター

- ・会議内容：基調講演1、レクチャー2件、国際セッション2、学生セッション2、IHPセッション、テーマセッションが5つ、ポスターセッションが3つで構成され、セッションで講演された論文数は165件、ポスターでの発表が336件であった。



写真2 KWRA セッション風景

3. 韓国の国際研究交流戦略

韓国は1997年のアジア通貨危機において金融破たん（債務超過）に陥り、国家が破産するところまで追い込まれ、IMFの援助を受けて、新韓国に向けて一丸となった再建が行われた。それから約10年、各分野別の産業は世界のトップクラスに出るものも出てきて、かつて、日本の手法や技術をいかにまねて追いつくかが目標だったのが、日本を抜き去り、今は世界に目が向く国となってきている。既にODA（政府開発援助金）は支給国に入り、しかも、2007年には、その額は6～7億ドルに上りギリシャやニュージーランドを上回り、かつ北朝鮮への支援5億ドルの供出を加えると11～12億ドルの援助額を有しオーストラリア、スイスに次ぐ世界第15位の規模を誇る。

電気通信産業ではすでにサムソンが日本企業を抜き去り、世界の主役になっていることからわかるように、この10年間で世界の主要舞台で活躍している。このような、韓国の戦略はスピード感とダイナミックな

変化への追随であり、日本と大きく異なっている点にあるのではないだろうか。

昨今、韓国では 4 大河川事業が多くの国民の反対を押し切って多額の公事業費をつぎこんで実施され、すでに完成に至ろうとしている。そのため、次の展開として韓国内の建設関連事業者は新分野の開拓が急務で、その先は海外展開へと向かいつつあり、ここでも、日本と競う状況にある。

このような背景のもと、KWRA も積極的な海外連携を進めており、2001 年に日本と開始した国際連携もその後、中国、ニュージーランド、米国と拡大し、今年度の会議にはカナダ、オーストラリアが招聘されており、セッションでも多くの韓国人学生が海外の専門家と論議を交わす姿が見られた。国際化の実践である。



写真 3. 国際セッションの風景

4. 韓国の活気

日本は公共事業費の縮減が継続し、建設関連の研究、行政、企業など多くの分野が疲弊してきている。日本の公共投資は 1991 年をピークに暫減し、2010 年には 1980 年と同額程度になってしまった。

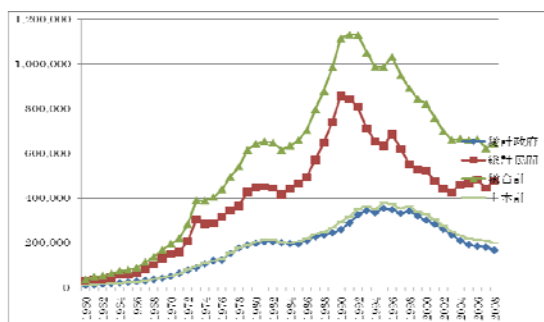


図 1. 日本の公共投資額
(億円：国土交通省資料名目値)

一方韓国は、1998 年の痛みを背景に、海外市場をもとらえて、着実な成長戦略を描いていると言えるのではないだろうか。かつての日本に比べると、大きなリスクの元に事業展開を図っているようにも見えるが。しかし、確実に若い世代が先輩の思惑を引継ぎ、国際的な取組にも大いに積極的に参加しているように見えるのは考え過ぎなのだろうか？

5. おわり

この韓国滞在の中で、ニュースが飛び込んできた。韓国内の水の専門家が集まり、北と南を含めた水管理、水政策、水利用に関わるコンソーシアムの立ち上げに動き出しているという。韓国には 1969 年に国土統一院が開設され、以来南北統一に向けた準備が行われてはいるが、いよいよ、韓国のみならず世界各国の専門家も交えて、水分野を半島として統合的に管理する仕組みが動き出しそうである。

日本が戦後 60 年かけて確立してきた水に関わる技術や政策を韓国は 10 年で動かしてきた。それは韓国の研究者も口にするように、スピード感と国際連携を背景とした舵取りのもとで行われている。まだまだ要素所には工夫の必要などもあるし、地方には手を加えるべき事項も残されているようにも見えるが、日本が 80 年代以降から実現しようとして、なかなか実現できていなかった国際連携に、いままさに、韓国が乗り出し、成功しようとしている。

ARRN はこのような韓国や中国、そして日本が連携し、次世代の世界の水問題の情報交換のハブとして重要な機関の使命を担っており、ますますの発展を期待したい。過去 20 年、日本は生産人口（15-64 歳人口）の低減が始まって以来、GDP は伸び悩み、公共投資も低減し続けている。今まさに、東アジアの一員として国際社会の中で活路を見出すことが求められているよう。

ARRN の情報がこれからの、日本や韓国、さらには中国の国際展開の要になる事を期待したい。

(了)

水辺からのメッセージ No.25

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

御所沼に時を忘れて思い耽る
風薫る五月：水辺に育つ独立樹には風景を引き締める効果がある



撮影：2011年5月（茨城県古河市）

◆目には青葉・山ホトトギス・初鯉

緑色はなぜ目によいかは様々な意見があるようです。自然と遠くの木々の緑を見るからなのか、緑色は波長が短く焦点を調節するのに毛様体筋がゆるんでリラックスするからか。実際には原色の緑より自然の淡い緑の方がずっといいようです。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2011 年 5 月提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

- 応用生態工学会国際交流委員会 国際シンポジウム
「生物多様性を意識した河川環境管理～COP10 後の日本と欧州での取り組み～」(6/8 開催)

・イベント名： 生物多様性を意識した河川環境管理～COP10 後の日本と欧州での取り組み～

・日時：2011 年 6 月 8 日(水)
13:00～17:40

・会場：東京工業大学 くらまえホール

・主催：応用生態工学会国際交流委員会

※詳細は URL 参照：

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2713.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

- 「河川文化を語る会」

JRRN 団体会員である社団法人日本河川協会から「河川文化を語る会」のイベント案内です。

【第 157 回】

- ◆テーマ：「我が国の集中豪雨災害と温暖化」
- ◆講師：中北英一氏（京都大学防災研究所 気象・水象災害研究部門教授）
- ◆日時：2011 年 6 月 13 日(月) 18:00～20:00
- ◆場所：厚生会館（全国土木建築健保）

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2716.html>

【第 158 回】

- ◆テーマ：「今迫りくる大洪水の危機」
- ◆講師：土屋信行氏（財団法人 江戸川区環境促進事業団 理事/前 江戸川区土木部長）
- ◆日時：2011 年 7 月 11 日(月) 18:00～20:00
- ◆場所：厚生会館（全国土木建築健保）

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2689.html>

【第 154 回】

※震災の影響により延期していた行事です

- ◆テーマ：「両河の賜物～ユーフラテス河とティグリス河が育んだ古代メソポタミア文明」
- ◆講師：小林登志子氏（NHK学園 古代オリエント史講座 講師）
- ◆日時：2011 年 8 月 9 日(火) 18:00～20:00
- ◆場所：厚生会館（全国土木建築健保）

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2487.html>

【海外からの情報提供】

- ECRR ニュースレターの最新号発刊 (2011 年 5 月号)

ECRR 最新ニュースレターを ECRR 事務局より送付頂きました。本レターでは、第 6 回世界水フォーラム(2012 年 3 月・フランス)における ECRR の関わり、欧州で開催された河川再生関連行事報告、またドナウ川再生に関わるナレッジ共有研究プロジェクトの紹介等が扱われています。(英語版)

※詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2726.html>



【JRRN 会員からの提供情報】

- カンボジア・アンコールワット周辺の水辺写真の紹介

海外在住の JRRN 個人会員 DM 様より、カンボジア・アンコールワット周辺の水辺写真をご提供いただきました。



※詳細は以下参照：<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2707.html>

会議・イベント案内（2011 年 6 月以降）

（ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント）

□2011 年の「JRRN 河川環境ミニ講座」を企画中

2011 年に開催する「JRRN 河川環境ミニ講座」を現在企画中です。是非聞いてみたいという講師や、関心のあるテーマがございましたら、JRRN 事務局までご意見をお寄せ下さい。（info@arrn.net）

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/>

□2011 年の ARRN「第 8 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」は秋頃に東京にて開催予定

本年度 8 回目を迎える ARRN 国際フォーラムは、2011 年 10 月～11 月頃を目標に、4 年ぶりに東京を会場に開催の予定です。プログラム概要が決まり次第、皆様にお知らせします。

※過去の開催報告はこちらから→ <http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2326.html>

（その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント）

■生物多様性を意識した河川環境管理

○日時：2011 年 6 月 8 日（水） 13:00～17:40

○会場：東京工業大学 くらまえホール（蔵前会館）

○主催：応用生態工学会国際交流委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2712.html>

■第 157 回 河川文化を語る会『我が国の集中豪雨災害と温暖化』

○日時：2011 年 6 月 13 日（月） 18:00～20:00

○会場：厚生会館（全国土木建築健保）

○主催：公益社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2715.html>

■第 158 回 河川文化を語る会『今迫りくる大洪水の危機』

○日時：2011 年 7 月 11 日（月） 18:00～20:00

○会場：厚生会館（全国土木建築健保）

○主催：公益社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2690.html>

■2011 年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2011 年 7 月 23 日（土）～24 日（日）

○会場：東京大学農学部弥生講堂

○主催：公益社団法人土木学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2649.html>

■第 154 回 河川文化を語る会『両河の賜物』

○日時：2011 年 8 月 9 日（火）18:00～20:00

○会場：厚生会館（全国土木建築健保）

○主催：公益社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2486.html>

■2011 年度川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域

○日時：2011 年 9 月 17 日（土）～19 日（月）

○会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス等

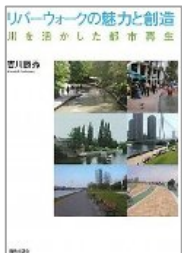
○主催：川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2574.html>

冊子・ビデオ等の紹介

■ リバーウォークの魅力と創造—川を活かした都市再生（2011.4 発行）

- ・ 著 者：吉川 勝秀(JRRN 会員)
- ・ 出 版 社：鹿島出版会
- ・ 発行年月：2011 年 4 月
- ・ 価 格：¥ 2,835 円（税込）
- ・ I S B N：978-4306072886



本書は、都市と河川を結ぶ「リバーウォーク」に焦点をあて、世界の事例を多数紹介しながら、これからの河川と都市のあるべき関係について解説しています。

■ 運河と閘門 水の道を支えたテクノロジー（2011.3 発行）

- ・ 編・著者：久保田稔、竹村公太郎、三浦裕二、江上和也
- ・ 発 行：日刊建設工業新聞社
- ・ 価 格：無 料



本書は、運河・閘門の基礎知識を紹介するとともに、北海道から九州まで日本全国の閘門を詳しく紹介する内容です。

本冊子をご希望される方は、「(財) リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3862 / Fax：03-3523-0640

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。

市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

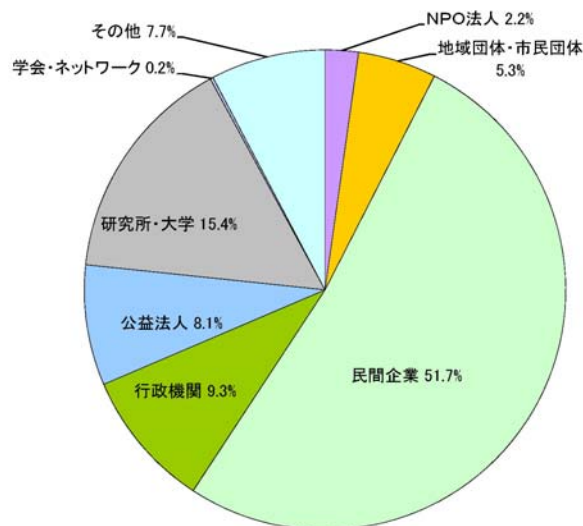
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011 年 5 月 31 日時点の個人会員構成
(個人会員数：493 名、団体会員数：33 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

リバーフロント整備センター
財団法人 Foundation
for Riverfront Improvement and Restoration

建設技術研究所
国土文化研究所